

令和6年度 学校評価計画書（中間）

石川県立志賀高等学校

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善
1 学力の向上 一人一台端末の活用を通して、魅力ある教材及び指導法の工夫等により、生徒の学ぶ意欲を高め基礎学力の向上を図る。	① ・ICTを活用して生徒が安心して取り組むことのできる授業を実践し、生徒の学習意欲を高める。	授業改善により工夫を凝らした授業実践（ICTの活用等）が定着しつつあり、学習意欲が高まったと答える生徒の割合が90%である。	【成果指標】 学習意欲の向上を図るため、わかる授業（見通しカード、ICTの活用、学びあい）を実践する。	「ICT機器の活用や、授業中の学び合いによって、学習意欲が高まった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：75%以上～90%未満である。 C：60%以上～75%未満である。 D：60%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (88%) ※生徒 (5)	昨年前期よりやや低い概ね例年並みの評価が出ている。しかし、1, 2年生の評価が低い(82%, 83%)ので相互授業参観等を促進し、授業改善に努める。
	② ・学習目標を明確にし、努力の手段や方法をわかりやすくすることで学習意欲喚起を図り、家庭学習時間を増やす。	学習意欲の高まりが家庭学習時間の増加につながり、家庭学習時間の平均が1時間以上であった生徒の割合は67%である。	【成果指標】 目標と手段方法の明確化により、家庭学習に自主的に取り組み、学習時間が増加する。	家庭学習時間調査の集計結果による、1日平均学習時間1時間以上の生徒の割合が A：80%以上である。 B：60%以上～80%未満である。 C：40%以上～60%未満である。 D：40%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (64%)	昨年(65%)並みの結果であったが高い数値ではない。特に3年次生の学習量が少なく、進路実現のための意識向上に加え、進路決定後の学習指導にもしっかりと取り組む。
2 進路の実現 進学意欲の高揚やキャリア教育の充実とともに、学習支援アプリを活用して個に応じた指導を充実させ、第一進路志望先100%合格を図る。	① ・社会人講座や企業見学会等、また学習支援アプリの活用により、生徒の進路意識を高揚させ、積極的に進路実現を目指す態度を育成する。	講座等が早期の進路決定のための参考になったと答えた生徒が84%いたものの、年度当初において、進路意識が希薄で、目標設定や進路実現のための準備が遅れがちな生徒がいる。	【成果指標】 講座や学習支援アプリの活用により、生徒の進路意識が高まり、進路実現に向けて積極的に行動できるようになる。	「社会人講座、各種マナー講座や企業見学会等、また学習支援アプリの活用により、進路実現に向けての意欲が高まった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (85%) ※生徒 (4)	進学・就職を直前に控えた3年生において、各種講座や企業見学会が効果的に意識の高揚に繋がったと考えられる。今後、1・2年生の進路実現に向け、学年団と情報を共有しながら、各種講座や行事を効果的に活用していく。
	② ・保護者等や関係機関と連携を深め、個に応じた進路指導の充実を図る。	87%の保護者等が情報提供に満足している。担任とも連携し、保護者が必要な進路情報を把握し、それに応えていきたい。	【満足度指標】 保護者等に進路について必要な情報が必要な時期に提供されている。	「学校が提供した個別の進路情報に対して満足している。」と答える保護者等の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (84%) ※保護者 (12)	昨年度に比べ、3年生保護者の評価が下がっている。学年団と連携し、ニーズを汲み取り、保護者に必要な情報が届くよう、取り組んでいく。
3 基本的生活習慣の確立 心の教育を実践するとともに、挨拶の励行を中心とした基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る。	① ・いじめアンケートを年3回以上実施するとともに、生徒全員に面談の回数を増やす。	個人面談の継続した実施等により、いじめに対する学校の毅然とした取組に対して90%の生徒は評価している。	【満足度指標】 生徒が学校はいじめに対する取組をしっかりと行っているととらえている。	「学校はいじめに対する取組をしっかりと行っている。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (87%) ※生徒 (20)	個人面談の継続やいじめに対する学校の毅然とした取組の結果、87%とB評価であった。引き続き継続して取り組んでいく。
	② ・保護者等と連携を図り、生徒自らも家庭でのスマートフォン等の使用のルールづくりに取り組む。	保護者等と連携した結果、家庭生活でスマートフォン等の使用のルールが守られているとした保護者は52%であり、継続的に啓発していく。	【成果指標】 保護者等が家庭内ルールづくりと子どもに遵守させることに努め、スマートフォン等の使用に関して規範意識を高める。	「家庭において、スマートフォン等の使用のルールが守られている。」と答える保護者等の割合が A：60%以上である。 B：50%以上～60%未満である。 C：40%以上～50%未満である。 D：40%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (56%) ※保護者 (6)	アンケートの結果を保護者に周知し、共通理解を持って指導したが56%とB評価であった。今後も家庭内ルールの遵守の継続に向けて保護者・生徒会と連携していく。
	③ ・毎日登校指導をするとともに、全教員、生徒会、PTAと連携した挨拶運動週間を設定する。 ・授業規律としての挨拶指導をする。	教職員の90%は生徒がしっかりと挨拶をしているととらえている。今年度も継続できるように、教職員が率先垂範して行う。	【成果指標】 登校や授業等において挨拶をしっかりとする生徒が増加する。	「生徒は語先後礼の挨拶がしっかりとできている。」と答える教職員の割合が A：95%以上である。 B：80%以上～95%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (79%) ※教職員 (10)	アンケートの結果79%とC評価であった。後期は教職員が率先垂範しつつ、生徒会と連携した挨拶運動週間等を設ける等、取り組みを強化する。

令和6年度 学校評価計画書（中間）

						石川県立志賀高等学校	
重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善
	④ 環境美化週間や放送などにより、学校環境衛生活動を積極的に推進する。	これまで整理整頓の習慣化を呼びかけ、改善を図ってきた。今後は環境美化週間等で重点的に取り組む目標を設定し、学校環境衛生活動に自ら進んで取り組めるよう継続的に啓発していく。	【成果指標】 教室や身のまわりの整理整頓、安心安全な生活を送る行動を自主的に実践する生徒が増加する。	「身のまわりの整理整頓を心がけ、校舎内の清掃活動の際に自ら進んで環境美化に取り組むことができた。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (82%) ※生徒 (18)	環境美化週間の際の机ロッカーすっきり点検では、ほとんどのクラスで整理整頓されていたが、自主的な整理整頓・清掃の習慣化までには至っていない。今後も先生方の協力を得ながら、保健委員による働きかけを工夫したい。
4 地域との連携 能登半島地震で被災した地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを総合的な探究の時間を通して推進する。	① ・ホームページの充実や志賀高だより等の配付物を定期的に発信し、情報発信の強化を図る。	本校の教育活動を理解している保護者等は93%であるが、更なる強化に努める。	【成果指標】 定期的に学校の様子を外部に発信する。	「ホームページや志賀高だよりによる情報発信が積極的に実施され、学校の取組がよく分かり、本校の教育活動が理解できた。」と答える保護者等の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (91%) ※保護者 (8)	ABの合計が91%であり、高評価を得ることができた。日ごろから学校行事を詳細に掲載し、継続してきた結果である。今後も取り組んでいく。
	② ・関係機関等と連携した教育活動を充実させる。	関係機関と連携し、災害ボランティアに参加して、防災について深く考え実践できるように努める。	【成果指標】 関係機関と連携し、防災関連の活動に積極的に取り組む。	「災害ボランティアに参加することで防災意識が高まった」という生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	D (50%) ※生徒 (12)	そもそも災害ボランティアに参加する生徒が少ない。日頃の学習活動を通してボランティア意識を高めると共に、最初の一步としてLHや総合的な探究の時間を活用して全員が災害ボランティアを経験できるようにしていきたい。
5 教職員多忙改善 時間管理を意識し、業務分担と協力関係を確立させるとともにICTの活用により、業務の効率化を図る。	・教職員の働き方を更に見直し、担当業務に対してタイムマネジメントを徹底し、時間外勤務の縮減を図る。	本校教職員の超過勤務時間は県の平均レベルではあるものの、特定の個人の超過勤務が課題である。業務のタイムマネジメントを図りたい。	【成果指標】 担当業務に対する、見通しを持ち、タイムマネジメントを意識して、前年度より時間外勤務を縮減する。	時間外勤務月80時間以上の教員の割合が年間で、 A：5%未満である。 B：5%以上10%未満である。 C：10%以上15%未満である。 D：15%以上である。	C Dの場合は具体的な改善策を検討する。	C (13.0%)	ICTの活用により職員朝礼を縮減し、業務の効率化を図った。また週末に部活動にて生徒引率を実施しており、時間外勤務が増加したと思われる。今後、平日勤務のタイムマネジメントを意識させたい。